

平成29年第1回羽村市議会（定例会） 一般質問通告項目一覧表

発言順	議席番号	議員氏名	質問項目	質問日
1人目	5番	中嶋 勝 (60分)	<p>1. さらなる英語教育の充実に向けて</p> <p>(1) 市の英語教育の現状とともに、英語教育をどう捉えているのか伺う。</p> <p>(2) 学習指導要領の改訂で英語教育はどう変わるのか。</p> <p>(3) 今後、さらに充実した英語教育を進めるために</p> <p>①ALT（外国語指導助手）の人数、時間、配置等の拡充はどうか。</p> <p>②小中一貫教育の乗り入れ授業と中学授業のレベルアップについてはどうか。</p> <p>③教科化への懸念等、英語教育に対する保護者の理解をさらに深めることについてはどうか。</p> <p>(4) オリンピック・パラリンピックに合わせた国際感覚の醸成、また受け入れボランティア等の育成についての施策を伺う。</p> <p>(5) 英語力向上のために、学習評価が得られる英語検定試験等の積極的な啓発と検定料の助成制度を考えてはどうか。</p> <p>(6) 羽村市では、平成29年度まで東京都英語教育推進事業の指定地域になっているが、今後の施策と平成30年度以降も継続した施策ができるよう予算確保も含めた充実策を望むがいかがか。</p> <p>(7) 羽村市の英語教育は先進的な取組みをしてきている。地方創生において教育という視点からも羽村市の魅力の一つとなることから、英語教育のさらなる充実により羽村市のアピールにつながることを望むがいかがか。</p> <p>2. 羽村市を活性化し発信させていくために</p> <p>(1) シティプロモーション推進課が新たに設置されたが、その目的とこの一年の成果及び今後の方向性を伺う。</p> <p>(2) 市の活性化やシティプロモーションに観光施策は切り離せない。法人化される羽村市観光協会への支援はどう変わり、充実されるのか。</p> <p>(3) 羽村の知名度向上や活性化へは、市民・企業・団体等の協力が重要である。市の魅力を広く発信することや様々なアイデア等の声を集め活かす方法はどうか考えているか。</p> <p>(4) 市の魅力発信への取組みについて</p> <p>①市の広告塔としての羽村市動物公園の改修工事と今後の充実への計画を聞く。</p> <p>②東京都の羽村取水管理事務所2階の多摩川に関する展示室の活用に向けて働きかけてはどうか。</p> <p>③乗客の目に留まるよう青梅線沿いの庁舎など、公共施設を活用したPRはできないか。</p> <p>④公式キャラクター「はむりん」グッズの充実と販売促進への考えを聞く。</p> <p>⑤現在市史編さん作業に取り組んでいるが、歴史を遡ることで羽村市独自の魅力が再発見できると思う。関連部署と連携して広く発信していくべきではないか。</p>	2月28日

2 人目

8 番

大塚 あかね
(60 分)

- ⑥公衆無線 LAN (Wi-Fi) 環境や多言語案内表示の整備を進めるべきではないか。
- (5) 魅力創出には地方創生事業は欠かせない。戦略策定から推進へ、そして本格的な展開をする段階に入っている。事業展開上、国からの交付金は大きな核となっているが、今後いつまで活用できる見込みなのか。また、市独自財源を確保することにより永続性のある事業展開ができるよう望むがいかがか。

2 月 28 日

1. 高齢ドライバー及び運転免許を返納した高齢者への支援・対策について

- (1) 「高齢運転者に関する交通安全対策の規定の整備について (平成 29 年 3 月 12 日施行)」の内容について周知は十分にされているのか。
- (2) 運転免許を返納した高齢者への支援・対策をどのように図っていく考えか。
- ① 「高齢者運転免許自主返納サポート協議会」の加盟企業・団体の特典について
- ア 加盟企業・団体がほとんど 23 区内であるが、羽村市にお住まいで免許を自主返納した高齢者からの評価はどのようなものか。
- イ 西多摩にある企業・団体の加盟が増えるよう、働きかけはできないのか。
- ② 羽村市として、免許を自主返納した高齢者に対し、支援策を考えてはいかがか。
- ア 運転経歴証明書交付手数料の補助
- イ タクシー、バス等の乗車料金の割引、助成等
- ウ 市内事業者の支援等
- エ その他の支援
- (3) 地域公共交通活性化再生法に基づき、公共交通網の充実と活性化を図り、運転免許を返納した後も、自分で買い物や病院、駅に行くなど、それまでと同様に外出ができるよう、移動手段の確保を図るべきではないか。
- ① 「はむらん」の増便・ルート見直しを図るべきではないか。
- ② 地域公共交通網形成計画を策定し、公共交通の確保・充実を計画的に図るべきではないか。
- (4) 高齢ドライバーが加害者とならないために、安全運転対策とともに道路環境整備を図っていくべきではないか。

2. シティプロモーションについて (その 2)

- (1) 基本構想、戦略が年度内に公表されるということだったが、どのような状況なのか。
- (2) 公式 PR サイトへのアクセス数、問い合わせ等、反応はどのような状況か。
- (3) ブランドメッセージの認知や関心を高めるための施策について
- ① ブランドメッセージに対する市民の認知度は。
- ② 市民の参画をどのように促していくのか。

3 人目

6 番

富 永 訓 正
(60 分)

- ③「はむりん」は今後、どのようにブランドメッセージを体現していくのか。
- (4) メディア戦略を進めていく中で対象となる人々（羽村市の場合は若い子育て世代）が、何を語っているかを聞き取る「傾聴」が大事と言われている。「傾聴」は十分に行われているか。
 - ① 転出入者から羽村市への愛着などアンケートを定期的に行う予定はあるのか。
 - ② インターネットを活用した傾聴による分析と結果はどのようなものか。
 - ③ ソーシャルリスニングを行っているか。
(ツイッター、フェイスブック、インスタグラム等で市民が羽村市について何を語っているか、ブランドについて何が言われているかを聴き取っているか)
- (5) 現在進められている施策の展開について
 - ① 「家族プロジェクト」は来年度にどのような活動を展開していくのか。
 - ② 市民記者の活動計画は。
 - ③ フリーペーパーの活用策について
- (6) PR 動画の作成は予定しているのか。

1. 行財政について

- (1) 第五次羽村市行財政改革基本計画をどのように総括しているか。
- (2) 第六次羽村市行財政改革基本計画に向けた行政面について伺う。
 - ① その方向性について、どのようなことに主眼を置いているか。
 - ② 公共施設等の運営・管理の民営化に向けた取組みの現状と今後の方向性を聞く。
 - ③ 市が所有する、用途が決まっていない未利用地の今後の活用をどのように考えているか。
 - ④ 第三者による住民票や戸籍などの不正取得の防止・抑止のための「本人通知制度」の導入に向けた取組みへの検討を進めてはどうか。
- (3) 第六次羽村市行財政改革基本計画に向けた財政面について伺う。
 - ① その方向性について、どのようなことに主眼を置いているか。
 - ② 各基金の運用を、どのような方針のもとに行っていくか。
 - ③ 税収増や新たな財源確保に向けた取組みを聞く。
 - ④ 市税等の収納率向上のための取組みを聞く。
 - ⑤ 東京都の平成 28 年度の市町村総合交付金は、まだ交付決定されていないが、ほかに活用できるものはないか。また、平成 29 年度以降の財源補完として様々な交付金、補助金の活用をどのように考えているか。
- (4) 行財政改革では市民の理解が不可欠である。どのように醸成を図っていくか。

2 月 28 日

4 人目

1 番

高 田 和 登
(60 分)

2. 介護について

- (1) 新・総合事業へと移行するが。
- ① 介護予防給付および介護予防事業において、従来からのサービスが、いつからどのようなサービスに変わるのか。また、どのサービスからスタートするのか。
 - ② それぞれのサービスの対象者数は。
 - ③ その準備状況はどうか。
- (2) この先、介護の担い手不足が懸念されるが。
- ① 訪問・通所型の住民主体による支援等において、市が独自に設ける認定ヘルパーなど介護の担い手を増やす取組みが必要ではないか。
 - ② 介護ボランティアの育成をどのように考えるか。また、介護ボランティア制度の創設に向けた機運の醸成、市民へのPRを図るべきと考えるがいかがか。
- (3) 健康寿命を延ばすためにも介護予防の取組みの強化が必要であるが、現状と、新たに考えられるこれからの取組みを伺う。

3. トイレの洋式化について

- (1) 学校、公共施設、地域会館、公園などの公共のトイレの洋式化率は、現状でそれぞれどのようになっているか。
- (2) 児童・生徒にとって、安全・安心とともに、利用しやすい環境整備を促進するためにも国や都の支援事業を活用して、学校トイレの洋式化のスピードアップを図るとともに、さらに推進すべきではないか。
- (3) 公園などの公共トイレの整備が遅れている。同様に進めていくべきであるがいかがか。

1. 防災行政無線戸別受信機について

- (1) 防災行政無線に対する市民の声について
- ① 防災行政無線が聞き取りにくいという市民の声があることを認識しているか。
 - ② このような市民の声に対し、どのような回答をしているか。
 - ③ 市民のうち「ろう」「難聴」「中途失聴」の方への対応について、障がいの程度や同居者の有無など様々なケースに分けた上での対応を問う。
 - ④ 高齢化に伴い、防災行政無線が聞き取りにくいという市民は増加し続けると考えられるが、対応を問う。
- (2) 防災行政無線のデジタル化について
- ① 現在のアナログ式防災行政無線の更新計画の詳細を問う。
 - ② 防災行政無線のデジタル化には多くの費用がかかると思うが、市民の生命に関わることであり、更新計画の前倒しを検討すべきと考えるが、いかがか。
- (3) 防災行政無線戸別受信機について
- ① デジタル式戸別受信機について研究したことはあるか。

2 月 28 日

- ②デジタル式戸別受信機が災害時に有効に機能するとの認識はあるか。
- ③中古のアナログ式戸別受信機は格安で入手できると思うが、検討したことはあるか。
- ④防災行政無線がデジタル化される間に、災害が発生する可能性があることを考えれば、少なくとも、希望者に使用できる期限を明確に提示した上で、アナログ式戸別受信機を有償配布するのも、1つの選択肢と考えるが、いかがか。
- ⑤福生市は防災行政無線をデジタル化していて、戸別受信機も運用している。参考にすべきと考えるが、いかがか。

2. 児童・生徒の自転車事故の防止について

(1) 羽村市内の児童・生徒の自転車事故について

- ①最近3年間の羽村市内の小中学校に通う児童・生徒の交通事故の件数と、そのうち、自転車関与事故の件数を問う。また、そのうち、加害事故はあるか。
- ②児童・生徒が自転車による加害事故を起こした場合、損害賠償責任は保護者にあると思うが、賠償金額が大きくなる場合もある。市はいかなる対策をとっているか。

(2) 児童・生徒の自転車安全教育について

- ①児童・生徒の自転車安全教育は、学年別では年に何時限実施されているか。
- ②スタントマンによる自転車安全教育（スケアード・ストレート）が中学校で実施されている。効果的な教育と考えるが、小学校高学年では実施しないのか。
- ③児童・生徒が自転車に乗るのは、主に放課後や休日などである。学校がPTAと協力して自転車安全教育に取り組むのは、大変有効と考えるが、いかがか。
- ④自転車シミュレーターを活用したり、自転車免許を交付したりする自転車安全教育も有効と思う。羽村市の小中学校でも実施すべきと考えるが、いかがか。
- ⑤交通安全子供自転車全国大会というのがあるが、羽村市の小学校にも地区予選に積極的に参加を呼びかけるべきと考えるが、いかがか。

(3) 自転車用ヘルメットの着用推奨について

- ①羽村東小では、PTAと協力して平成29年4月1日から自転車に乗車する際は、必ずヘルメットを着用することにした。他の市立小・中学校での実施状況を問う。
- ②青梅市では、幼児・児童用のヘルメットを購入する場合、補助が出る。羽村市でも、補助を検討すべきと考えるが、いかがか。
- ③児童・生徒へのヘルメットの着用は、保護者が率先して実行することが必要と考えるが、いかがか。

(1) 農・商・工・観の連携について

- ①平成 25 年 6 月議会で、「道の駅ミニ版」を提案した。レストランの運営等も含め、人の集まる場所の創出を提案してきたが、その後の検討はどうなったか。
- ②平成 23 年 6 月議会で観光などに利用できる自転車のレンタル事業等を提案したが、その後の検討はどうなったか。
- ③平成 26 年 12 月議会で、「政府が募集する 2020 年東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンに手を挙げては」と質問したが、現在の状況はどうか。
- ④オリンピック・パラリンピックを控え、海外と「姉妹都市」または「友好都市」を提携する考えはないか。
- ⑤外国人が様々な日本文化に触れられる体験コース（着物、お茶、お料理作り、買い物、アニメ等）を農・商・工・観の連携等で整えてはどうか。

(2) 市内産業の活性化について

- ①市内には世界でも有名な企業や独自の技術を持った企業もある。そういった企業と連携し、オリンピック会場や、その後も活用できる商品づくりのための企業支援をできないか。
- ②中小企業への IOT 化、IOT 製品など新製品の開発を促進する取組みを支援してはどうか。

(3) その他

- ①平成 20 年 3 月議会で、「羽村駅から動物公園」「羽村駅からはむら花と水のまつりの会場」までの道に案内版などの提案をした。早急に羽村駅西口からまつり会場までの歩道等に矢印の案内版やデザイン・マンホールなどを設置しては。
- ②デザイン・マンホールを印刷したマンホール・カードが市でも昨年 12 月 1 日から配布されているが、現在の状況は。
- ③照明や携帯電話の充電のほか、防災にも役立つ避難標識などを兼ねた自立型ソーラースタンドを、公共施設や公園、今後整備予定のサイクリング・ステーションなど人が集まる場所へ設置してはどうか。

2. 安心・安全・快適な道路整備等について

(1) 道路の改修や維持保全について

- ①道路の改修や維持保全は平成 28 年度で、どこまで進むのか。
- ②平成 29 年度は何を優先し、どこまで進む予定か。また、交通バリアフリーは進むのか。

(2) 安心・安全の道路整備等について

- ①平成 28 年度に整備されている自転車ナビマークや自転車レーンはどこまで設置されたのか。

6 人目

12 番

小 宮 國 暉
(60 分)

- ②羽村駅から産業道路に至る通り、羽村街道など、学生の自転車利用の多い通りは、ナビマークではなく、自転車レーンを確保した方が良いのではないかと。
- ③路面下空洞調査は平成 26 年 8 月に試験的に行われ、空洞部分 1 か所が発見され整備されたが、本格的な路面下空洞調査の優先順位は決定したのか。
- (3) その他の整備について
- ①市役所通りや西口整備などのメイン通りなどの道路整備にあたり、電線の地中化や、バリアフリー、グリッド化、観光の視点など総合的な整備の計画を考えてはどうか。
- ②はむらんのバス停に、イスと屋根（ソーラー、LED 付き）を設置し、高齢化や温暖化対策に対応してはどうか。
- 3. 女性の視点から推進する防災対策について**
- (1) これまでの一般質問等で、女性の視点での防災対策を取り上げてきたが、どのように反映されているか。
- (2) 内閣府の避難所運営ガイドラインが見直され、わかりやすい避難所運営の手引きの整備が求められているが、検討は進んでいるのか。
- (3) 平成 29 年度の都の予算案に「女性版の東京防災」の冊子が計上されている。防災に関心を持つ女性が増えるよう、この冊子を活用したセミナーやシンポジウム、勉強会を開催し、人材育成や、女性向け防災備蓄物資の充実、自助（家庭での携帯トイレの備蓄の推進など）への意識向上に向けた啓発が必要では。

1. 地域とともに歩む魅力あるまちづくり（産業の育成）に向けて

- (1) 農地の保全と活用について
- ①農地は農産物を提供する機能に加え、防災、景観形成、環境保全や、生涯学習など多面的機能をもった付加価値の高いものと捉えているが、羽村市の認識はいかがか。
- ②羽村市内の農地面積の現在と 10 年前との比較及び保全に対する課題は。
- ③根がらみ前水田は、近隣市町にない貴重かつ重要な役割を持っている。保全に対する取り組みと過去の事例と課題は。
- (2) 起業・創業・開業支援について
- 空き店舗の解消、商店会の活性化のため、市では、産業福祉センターに i サロンを開設し、市独自の起業・創業・開業支援に取り組んでいる。実績はどのようになっているか。また、課題は把握されているか。商工会のノウハウや民間活力の導入等今後の展開について伺う。

3 月 1 日

7 人目

10 番

橋 本 弘 山
(60 分)

(3)ものづくり企業立地継続支援について

立地から半世紀が経過し、工場設備の老朽化や耐震化の課題が生じる中、市内に立地する工場が引き続き建物や設備の更新が行えるよう、国や東京都の継続立地支援制度の活用等、市は、商工会工業部会等と連携し積極的支援策を展開していくことが急務と考えるがいかがか。

(4)恵まれた観光資源を生かし、観光分野での活性化と羽村市の知名度アップに向けて

- ①市の観光振興を推進するためには、その中心となる組織体制、運営体制の充実を図ることが重要である。観光協会においては、一般社団法人を目指し取り組んでいる。法人化後の観光協会と羽村市との関わりについて、市の考えは。
- ②羽村市は観光資源に恵まれている。観光分野での現状把握が、体系的に網羅されているか。また課題、強み、弱みが整理されているか。
- ③シティプロモーションの一環として羽村堰周辺整備等新たな展開が企画されていると聞き及んでいる。具体的な事業概要がいつ策定され、現在どの段階なのか。

2. さらなる行財政改革の推進に向けて

(1)平成 19 年 9 月議会における「民間活力の導入について」をはじめ、平成 21 年の「PDCA 管理サイクルへの提言」、平成 22 年の「市立保育園の民営化と待機児童の解消」等、行財政改革について質問してきた。

- ①行財政改革として、過去 10 年間にどのようなものがあつたか。
- ②過去 10 年間における取組みで、行政コストの低減、効果額は概算でどのくらいか。

(2)第六次羽村市行財政改革基本計画について

- ①計画の内容は。
- ②これまでの計画との違いは。
- ③第五次長期総合計画後期基本計画との関係は。

(3)行財政改革を進めるうえで必要な事務事業の評価について

- ①行政評価はどのように実施されているか。
- ②評価結果はどのように公表されているか。
- ③平成 28 年度事務事業に対する評価のスケジュールは。

(4)これからの行財政改革の取組みについてはどのように行っていくのか。

1. マイナンバー制度の現在の状況について

(1)マイナンバーカードの交付状況について

- ①現在までに交付した数はどのくらいか、また全体の交付率はどのくらいか。
- ②近隣自治体の状況はどうか。
- ③全国の状況はどうか。
- ④現在、交付申請はどのくらい出ているのか。

3 月 1 日

- ⑤申請からカードが本人に届くまでの日数はどのくらいか。
- ⑥現在までに苦情やセキュリティ関連のトラブルはなかったか。
- (2)マイナンバーカードのさらなる普及について
 - ①今後どのように周知していくのか。
 - ②普及のための施策は。
 - ③もっとマイナンバーカードのメリットを伝えていく必要があるのではないか。
- (3)マイナンバーカードの活用と今後の市民サービスについて
 - ①全国のコンビニでの証明書交付が可能になり、その費用が来年度予算に計上されているが、どういうシステムになるのか。
 - ②コンビニでの証明書交付のセキュリティ対策は万全か。
 - ③羽村市独自の市民サービスの検討も始めてみたらいかがか。
 - ④近隣自治体独自の市民サービスの情報を掴んでいるか。
- (4)今後のマイナンバーカード利用の方向性をどのように考えるか。

2. 献血の推進について

- (1)献血の推進について
 - ①全国の献血者の年代別の傾向は。
 - ②市内で行われている献血事業において、その献血者数は把握しているか。またその年代別の傾向は。
 - ③羽村市での実施状況は。
 - ④日本赤十字社の行う献血事業について、羽村市はどのような協力を行っているか。
 - ⑤献血の重要性についてどのように認識しているか。
 - ⑥市民への普及啓発をどのように行っているか。
 - ⑦高校生や大学生など、若者の協力は不可欠であるが、協力しやすい環境づくりをどう考えていくのか。
 - ⑧16歳からの献血が可能であることから、中学生の時から献血についての必要性を説いていくことは、命の大切さを教えるためにも重要であると考えがいかがか。
 - ⑨献血事業をさらに推進させていく必要があると考えるが、市の考えは。

3. 市民の健康増進について

- (1)特定健診の実施状況について
 - ①特定健診の受診率は。
 - ②特定健診結果を受けての特定保健指導の状況は。
 - ③特定健診結果をどう分析し活かしていくのか。
 - ④医療費適正効果をどう捉えているか。
 - ⑤羽村市として追加している検査項目はあるか。
 - ⑥受診率向上に向けた取組みは。

8 人目

11 番

山 崎 陽 一
(60 分)

- ⑦胃がんの要因となるピロリ菌検査についてどう考えるか。
- (2) 各種がん検診の実施状況について
 - ①各種がん検診の受診率は。
 - ②その結果をどう分析し活かしていくのか。
 - ③採血検査で可能な前立腺がんの検査を特定検診に加えることはできないか。
- (3) 小・中学生の健康診査について
 - ①健診の結果は把握しているか。
 - ②その傾向と対策は。
 - ③食物アレルギーの対策は進んでいるか。
- (4) 健康増進への取組みの中で
 - ①「郷土博物館」「羽村神社」「浅間岳」を巡る羽村草花丘陵都立自然公園のトレッキングコースを、健康増進のための「歩く」という見地からもっと活用すべきと思うがいかがか。
 - ②健康増進とラジオ体操の関連についてどう考えるか。
- (5) 市民の健康増進の今後の課題とその対策は。

1. 区画整理撤回要求第 40 弾

- (1) 30 年の事業計画変更が行き詰まった。その詳細を聞く。
 - ①平成 28 年度中を予定した 30 年の事業延長計画の目的は何か。
 - ②計画の根拠、作成に関する経費、作成担当者はだれか。
 - ③30 年の事業計画変更の内容の項目、詳細を聞く。
 - ④変更前との相違点は何か。
 - ⑤予定した交付金、補助金は何か。歳入として確約できるか。
 - ⑥国、都のどの部署と、どのような調整をいつから何回したか。
 - ⑦国、都の「長期計画は社会情勢の変化に対応できない」という指摘は、事業の見直しを視野に入れよ、ということではないか。
 - ⑧変更計画が認められなかったことによる事業への影響は何か。
 - ⑨現計画の平成 29 年度事業費は 87 億 4600 万円、市費負担は 59 億 1400 万円。市民にどう説明するか。
 - ⑩今後、事業計画をどう策定するかを聞く。
- (2) 法令守らぬ区画整理工事について聞く
 - ①騒音・振動、休日工事など法令違反は明らか。工事業者への指導はどのようにしたか。
 - ②工事個所で遺跡発掘調査が行われた。埋蔵文化財は保存されるのか。
 - ③どのような埋蔵物が確認されたか。その歴史的価値を後世にどう伝えるのか。

3 月 1 日

9 人目

13 番

馳 平 耕 三
(60 分)

- ④移転補償説明、仮換地指定では丁寧な資料を示す、という。具体的に見せてほしい。
- ⑤個人宅の解体で、生活道路にダンプカーが走り危険だ。施行者としての対応は。
- ⑥先行取得地の形状変更などで、近隣住民の不安は大きい。どんな説明をしているか。

3 月 1 日

1. 羽村市の教育の諸問題について問う

(1) 教職員の多忙化解消について

- ①教育委員会では、羽村市の教職員の多忙化の現状についてどう把握しているか。また、会議の中でその解消に向けて話し合ったり、方針を示したりしているか。
- ②各学校で、多忙化是正の具体策についてどのような取組みがなされているか。
- ③部活動の指導について、市内各中学校では平成 29 年度にどのような具体策をとる考えか。

(2) 学期制の変更について

中学校では平成 30 年度から、2 学期制から 3 学期制へと移行する。平成 29 年度はその周知と説明が必要とされる。

- ①中学校の保護者や生徒に対して、いつ、どのような説明をする考えか。また、その際、学期の変更だけでなく、同時に羽村市の教育方針も伝えるべきだと考えるがいかがか。
- ②小学校でも、移行しない理由などの説明が必要かと思うが、教育委員会の考えは。

(3) 第五次羽村市長期総合計画における学力向上策について

- ①学力向上を検証する具体的な指針（数値）はあるか。
- ②国や都が実施している学力調査の学校ごとの結果を公表する考えはないか。
- ③アクティブラーニング・学び合いの教師の力量をどうアップさせる考えか。

2. 西多摩の課題を広域で連携する場をより拡充すべきではないか

(1) 多摩地域の 9 市の首長が一堂に会し、「広域連携サミット」が開かれたが、羽村市には参加の要請はなかったのか。それとも、市長の判断で参加しなかったのか。

(2) 同様の取組みを、市長が呼びかけ人となって西多摩でも始めるべき時だと考えるがどうか。

(3) 災害対策、観光、医療、オリンピック・パラリンピック、産業、教育の各分野で、今後、広域でさらに進めるべき課題をどう考えているか。

3. 小地域ネットワーク活動について問う

(1) 小地域ネットワーク活動の事業主体を誤解している市民が多いが、実施主体はどこか。

(2) 現在 39 地区が実施しているが、そのうち町内会組織に組み込まれているのは何地区か。

10 人目

4 番

富 松 崇
(60 分)

- (3) 合計 273 万円の交付額の中で、合算して支出が大きい事業 3 つは何か。
- (4) 対象が、障がい者・子育て家族にまで拡大している地区はあるか。
- (5) 当事者の生活活動に対応した生活支援活動にまで拡大しているか。
- (6) 活動人材が不足していて運営が厳しい状況の地区も多くあるが、今後改善策はあるか。

1. インターネットを活用した羽村市の魅力発信について

- (1) 羽村市公式 P R サイト「愛情ギュッとず〜っとはむら」について
 - ① 公式 P R サイトの市外からのアクセス数は。
 - ② 公式 P R サイトを閲覧された方からの問い合わせなどはあるか。
 - ③ 公式 P R サイトの今後の展開について伺う。
- (2) 今後の展開について
 - ① 市民や各種団体から羽村の魅力を発信してもらうことも効果があると思うが、市として支援していく考えはないか。
 - ② 公式サイトや公式 P R サイトへリンクを張ってもらうことも効果があると思うが、現在の状況は。
 - ③ 公式 P R サイトは若者に特化したサイトとして作られていると思う。一方で、幅広い世代の方に羽村の魅力を発信していくことも定住人口の増加につながると思うが、今後新たな取り組みを考えているのか。

2. 市内の防犯対策について

- (1) 犯罪発生状況について
 - ① 平成 28 年に市内で発生した件数は。
 - ② 分類別ではどのような犯罪が多く発生しているか。
 - ③ 子どもや女性が被害にあう犯罪はどのような場所で多く発生しているか。
- (2) 街路灯の設置について
 - ① 昨年の 3 月定例会で街路灯の新規設置要望の件数を伺ったところ、98 件の要望があり 6 件設置予定とのことだった。その後の要望や設置状況はどうなっているか。
 - ② 設置が困難な場所に対して、行ってきた対策は。
 - ③ 近隣住宅や農作物の生育に影響を与えないようカバーを付けたり、照度を抑えるなどの工夫をして設置された街路灯はあるか。
 - ④ 街路灯が設置困難な場所に対して、市民や事業者の協力をいただき、防犯カメラやセンサーライトなどを使った防犯対策を図る考えはあるか。
- (3) まち・ひと・しごと創生計画の実現のためにも防犯対策の強化を図り、犯罪発生を抑止することが課題だと思うが、市としての考えを伺う。

3 月 1 日

11 人目

18 番

門 間 淑 子
(60 分)

1. 昭島市の可燃ごみ受け入れ問題について

- (1) 西多摩衛生組合から、1月30日付けで「昭島市の可燃ごみ共同処理依頼に係る3項目の調査・検討結果」が出された。羽村市は、今後どのように対応していく予定か。
- (2) 構成市町間の協議は、どのように進められるのか。
- (3) 昭島市との協議は、どこまで進んでいるか。
- (4) 昭島市の状況と、途中経過を説明してほしいとの声が多い。市民説明会は求めに応じて何度でも開催すべきと考えるが、どうか。

2. 羽村駅西口土地区画整理事業は抜本的見直しを

- (1) 羽村駅西口土地区画整理事業に、これまで市税・都補助金・国庫補助金はそれぞれいくらかかったか。
- (2) 羽村駅西口土地区画整理事業の借金はいくらになっているか。
- (3) 昨年12月議会で、羽村駅西口土地区画整理事業に対し、国・東京都から「20年を超える長期間にわたる考え方では、社会情勢の変化を見通すことが非常に難しく、無理がある」と指摘されたとの答弁があった。今後、どのように進めていくのか。
- (4) 「今のままで生活に不便はない」との声を聞くが、どのように答えるか。
- (5) 羽村駅西口土地区画整理事業は、規模・予算・手法ともに、人口減少時代に対応しない事業だと指摘してきた。一旦凍結し、抜本的に見直すべきではないか。

3月1日

12 人目

17 番

水 野 義 裕
(60 分)

1. 羽村駅西口駅前の整備はいつ実現するのか

- (1) 全体計画について
- ① 費用面を別にして、事業の全体計画は立てたか。立てたなら早期に公表すべきではないか。
- ② 30年を事業期間としていると説明があったが、その期間をどのように区切って、どのように進めるのか。
- ③ 羽村駅西口の広場の整備はいつ頃から手を付け、いつ頃終わる計画か。早める手立てを考えるべきではないか。
- (2) 国や東京都は長期の計画は望ましくないということだった。
- ① 現在公表されている国や東京都からの補助金は、補助の確認がとれているのか。
- ② 新しい補助メニューについて、何らかのめどがついているのか。
- ③ インフレや工事単価の上昇、事業の長期化などにより工事費用が増加した場合、補助金は見直されるのか。

3月2日

13 人目

7 番

鈴木拓也
(60 分)

(3) 説明などについて

- ① 昨年 12 月議会で、都市づくり公社を使うのは、事業説明の一貫性を保つためとの答弁があったが、公社の職員は、これまで何人入れ替わったか。
- ② 移転の説明や打ち合わせには担当者が当たっているとのことだが、地権者からどのような声が届いているか。地権者の質問に答えられず、持ち帰ってそのままということがあると聞いているが。
- ③ 質問の度に、「個別に説明する」と答えているが、30 年の全体計画を議会および地権者に説明すべきではないか。

(4) 事業の見直し

- ① 国土交通省の作成した「多様で柔軟な市街地整備手法について」に対してどう考えているか。
- ② このまま事業を進めるのではなく、原点に戻って将来を見据えた案を考えるべきではないか。

2. 昭島市のゴミ問題について

- (1) 市長は、申し入れの背景をどのように認識しているか。
- (2) 地元からの声が西多摩衛生組合に届いているようだが、これらにどのように対応するか。
- (3) 市民からも説明を求める声があるが、どう対応するか。

3. これまでの答弁について

- (1) 平成 28 年 3 月に「様々な計画の洗い出しや体系化は、第五次長期総合計画後期基本計画策定の中で検討する」とのことだったが、検討結果は怎么样了か。
- (2) 様々な計画の期間を長期総合計画に合わせる検討は進んだか。
- (3) 平成 28 年 9 月に市内の道路の劣化について「他市と比べて程度は変わらない」とのことだった。来年度から、補修費用をこれまでよりほぼ倍増させるようだが、その背景は。
- (4) 平成 27 年 6 月に「補助金の見直し・検証を複数年かけて行う」とのことだったが、どこまで進んだか。

1. 羽村市は本当に子育てしやすいか？①

- (1) 福生市は、「学童クラブの待機児ゼロ（28 年 4 月）。しかも小学 6 年生まで受け入れ」である。羽村市はどうか。充実が必要ではないか。
- (2) 福生市は、「就学前人口に対する保育園利用率が 26 市でトップ」である。羽村市はどうか。充実が必要ではないか。
- (3) 福生市は、「保育料の保護者負担率」が「国の基準額より約 57%低減」である。羽村市はどうか。充実が必要ではないか。
- (4) 福生市は、「学童クラブも利用しやすく低料金」である。羽村市はどうか。充実が必要ではないか。

3 月 2 日

- (5) 福生市は、「定期利用保育が、年度内に限り通常入園と同じ条件で保育園を利用可能。進級も保障」である。羽村市はどうか。充実が必要ではないか。
- (6) 福生市は、「一時預かりを全園で実施（里帰り出産にも対応）」している。羽村市はどうか。充実が必要ではないか。
- (7) 福生市は、「病児・病後児保育の利用料金1日1000円、小学6年生まで利用可能」である。羽村市はどうか。充実が必要ではないか。
- (8) 福生市は、「英検の公費導入」を始めた。羽村市はどうか。実施が必要ではないか。
- (9) 福生市は、「福祉バスを妊婦、または未就学児がいる世帯は無料で乗車」できる。コミュニティバスはむらんでも同様の施策を行ってはどうか。
- (10) 福生市は、「幼稚園保護者補助金」で保育料、入園料を補助している。羽村市の制度とどう違うのか。充実が必要ではないか。
- (11) 福生市は、「ファミリー向け住宅を建てるための空き家住宅除却費用の補助」「ファミリー向け長期優良住宅の固定資産税相当額の補助」を行っている。羽村市はどうか。施策が必要ではないか。

2. 今こそ羽村駅西口土地区画整理事業の見直しを

- (1) 30年計画について
- ① 区画整理事業の完成までこれから30年間かかるとの計画を市は持っている。なぜ、それほど時間がかかる計画なのか。
 - ② もともとは、これから50年間かかる計画だったと聞く。それを30年間に短縮したそうだが本当か。どうやって短縮したのか。
 - ③ 30年計画では、平均して1年間でいくらかお金がかかるのか。最もお金のかかる年ではいくらかかかるのか。その内訳はどうか。
 - ④ 30年計画では、羽村駅前の整備、羽村大橋から羽村街道に抜ける道路の整備はいつ完了することになっているか。
- (2) 30年計画に国、都が「無理がある」と言っていることについて
- ① 短期間の計画を積み重ねていく旨の答弁があった。その手法で平成56年度までに完成できる見通しをもっているのか。
 - ② 国、都の補助金等が十分に獲得できない場合でも、市のお金で整備をするつもりか。
 - ③ 区画整理手法による西口整備は断念し、現在の道路を生かした修復型まちづくりに切り替えるべきではないか。

1. 中学校の部活について、もっと生徒の成長の確保と教員の過重負担軽減を

(1) 市教委、学校は、文部科学省の「学校現場における業務の適正化に向けて（通知）」をどのように受け止め、考えているのか。

(2) この通知で、文部科学省は、平成 9 年の中学生・高校生のスポーツ活動に関する調査研究協力者会議の報告書を引用して「スポーツ障害やバーンアウトの予防の観点、生徒のバランスのとれた生活と成長の確保の観点などを踏まえると、行き過ぎた活動は望ましくなく、適切な休養日等が確保されることは必要なことである。」として、「中学校の運動部では、学期中は、週当たり 2 日以上休養日を設定する。」などの設定例を示している。そして、「しっかりと休養日をつける等の取組みを徹底することが不可欠である。」としている。

羽村市の中学校部活動は、活動日が、ほとんど毎日あるいは週 6 日という部活がかなり多い。教師、子ども、保護者で、本当にこれでいいのか話し合いをもつ必要があるのではないのか。

2. 子どもたちが経済的な理由で、成長が困難にならないように～子どもの貧困化対策について～

(1) 経済的な理由で進学できない中学生、高校生がいる。国では、返済なしの奨学金制度が、該当者は極めて少ないながら実現が決まった。羽村市でも、独自の返済なしの奨学金制度を作らざるべきと考えるがどうか。

(2) 「羽村市長期人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生計画」の若者意識調査の「実際持っていた子どもの数が、理想とする数より少ない理由について」では、「教育費がかかりすぎる」が断トツの 1 位で 37.3%になっている。これを見ても、せめて、給食費や教材費など義務教育にかかる費用は無料にすべきと考えるがどうか。

(3) 経済的理由によって医療機関への受診控えが起こらないように、18 歳までの窓口負担は無料化すべきと考えるがどうか。

(4) 日本共産党は、(2) のとおり、本来、義務教育費は無償と考えている。その立場から今までに提案した就学援助について再度質問する。

① 昨年の 6 月議会で質問した就学援助の認定基準について、その後、改善の方向で検討されているか。

② 同時に質問した新入学用品費の支給時期が、本来必要とする時期から大幅に遅れていることに関して、支給時期を 2、3 月に変更する検討がなされているか。

3. 多摩川の清流を守れ

(1) 郷土博物館前の多摩川の流に異常な泡が見受けられ、近くの住民が心配している。至急、原因を調査して対策を立てるべきと考えるがどうか。

15 人目	3 番	印 南 修 太 (60 分)	<p>(2)多摩川の水質調査で、これまでに大腸菌群数が基準値を大幅に上回ったことがあったが、原因を調査して対策を立てるべきと考えるがどうか。</p> <p>(3)水質検査項目を増やすべきと考えるがどうか。</p> <p>1. スポーツのあるまちづくりについて</p> <p>(1)羽村市から平昌五輪中に視察チームを派遣し、キャンプ誘致など市のPRはできないか。</p> <p>(2)市内企業と協力し、羽村駅などにラグビーワールドカップ 2019 のフラッグを立てるなど、関連事業ができないか。</p> <p>(3)東京 2020 オリンピック・パラリンピックの事前準備は、現在どのように進んでいるか。</p> <p>(4)東京 2020 オリンピック・パラリンピックに、羽村市からオリンピックやボランティアを送り出せないか。</p> <p>(5)今年度、スポーツ定着事業として様々なトレーニング教室が開催されたが、今後はどのように展開していくのか。</p> <p>2. 羽村駅西口地区のまちづくりについて</p> <p>(1)先行取得地に、深谷市が実施している「深谷ベース」のような移設可能なコンテナハウスをつくり、新たな交流やにぎわいを創れないか。</p> <p>(2)羽村駅西口土地区画整理事業を、現在優先的に整備を進めている 4 地区を前期、それ以外を後期に分けて全体計画を明確にし、進めることはできないか。</p>	3 月 2 日
16 人目	15 番	濱 中 俊 男 (60 分)	<p>1. 広域連携に関して</p> <p>(1)羽村市の加入する一部事務組合・広域連合の設立のいきさつは</p> <ol style="list-style-type: none"> ①西多摩衛生組合は。 ②福生病院組合は。 ③瑞穂斎場組合は。 ④青梅、羽村地区工業用水道企業団は。 ⑤羽村・瑞穂地区学校給食組合は。 ⑥東京たま広域資源循環組合は。 ⑦東京都後期高齢者医療広域連合は。 <p>(2)広域連合について</p> <ol style="list-style-type: none"> ①観光行政については広域的に考える必要があると思うがどうか。 ②公共施設の相互利用をより進めることの必要性についてどう考えるか。 ③災害時等の危機管理に関してはどうか。 ④地域包括ケアシステムに関してはどうか。 <p>(3)今後について</p> <ol style="list-style-type: none"> ①西多摩地域広域行政圏協議会の深化についてはどう考えているか。 ②立川市等が主催し、統計数理研究所が共催した「広域連携サミット 2017」が開催された。 	3 月 2 日

9市の首長が地域の課題を話し合ったと報道された。近隣市等との連携に有効な手法と思うかがか。

- ③青梅鉄道も無く、郵便局も無く、一台の電話も無かった明治22年に、町村制の施行とともに当市の前身である西多摩村が発足した。爾来128年、一度も合併をすることなく現在に至っている。時代の要請に応えるため、合併についての協議を進めることも必要と考えるかがか。

2. 学童クラブの運営について

(1) 学童クラブの現状について

- ①児童数の推移は。(平成24年度～平成28年度)
②定員数の推移は。(平成24年度～平成28年度)
③待機児童数の推移は。(平成24年度～平成28年度)
④新1年生の人数について、教育委員会から児童青少年課にいつごろ連絡があるのか。
⑤預かっている児童につき、情報共有を各学校とどのように行っているか。

(2) 管理運営に関する民間活用の検討状況は。

(3) 富士見学童クラブ新設について

- ①当クラブの児童数や定員の推移は。(平成24年度～平成28年度)
②仮に新設の場合、建設費用、また土地取得費等の必要額はどのくらいと見積もっているか。
③新規建設すべきと考えるが、市の考えは。